



愛努專欄 預告編

アイヌ特集・予告編
Column of Ainu: Preview

文 | 編集部

審稿 | 北海道大學愛努・
先住民研究中心

文責 | 編集部

監修 | 北海道大学アイヌ・
先住民研究センター

イランカラッテ (Irankarapte!)

—これはアイヌ語の挨拶である。二風谷アイヌ資料館の創設者でアイヌ初の国会議員でもある故・萱野茂（かやのしげる、1926-2006）博士によると、「イランカラッテ」には「あなたの心にそっとふれさせてください」というニュアンスがあるそうだ。これについては研究者間でも定説はないが、2013年8月からアイヌ文化を普及啓発するために官民学協働で展開している「イランカラッテ」キャンペーンでは、このホスピタリティ溢れる解釈をキャンペーンのメッセージとして位置づけている。

本誌『原教界』もかつて第18号（2007年12月号）「アイヌ民族の発展」特集号で、アイヌの言語、歴史、文化、教育、文学などの現状と発展について紹介したことがある。それ



イランカラッテ
「こんにちは」からはじめよう。

2013年迄今産官學合作舉辦的irankarapte活動標誌。設計概念結合了愛努語與愛努紋樣。以愛努語的您好打造北海道的當地特色。（圖片來源：「イランカラッテ」キャンペーン推進協議會 <http://www.irankarapte.com/>）

2013年から始まった「イランカラッテ」キャンペーンのロゴマーク。アイヌ語とアイヌ文様を組み合わせたデザインを使用し、アイヌ語の「こんにちは」で北海道の特色を押し出している。（出典：「イランカラッテ」キャンペーン推進協議會 <http://www.irankarapte.com/>）

Irankarapte! (イランカラッテ)

這是愛努族打招呼問好的族語。二風谷愛努資料館創設人，同時為愛努族首位參議員已故萱野茂博士（KAYANO Shigeru, 1926-2006）曾解釋說，Irankarapte 這句話有「請讓我輕觸您的心扉」的意涵。雖然此說法在學術界未成定論，但北海道2013年8月以產官學合作方式發起Irankarapte活動，將萱野茂富有待客意涵的詮釋，定位為活動表達的訊息。

本刊《原教界》第18期（2007年12月號），以〈愛努（阿伊努）的民族發展〉專題，為讀者介紹了愛努族語言、歷史、文化、教育、文學等現狀與發展。睽違10年，今年度將以愛努族專題形式，引領讀者觸碰主要居住在北海道的日本原住民——愛努族的文化與精神。本期首先鳥瞰愛努族的概況。



から10年を経た今年度は、アイヌ特集という形で日本の、とりわけ北海道の先住者であるアイヌ民族の文化と精神に触れたいと思う。今号ではアイヌ民族の概況を俯瞰的にみてみたい。

人口

1988年の東京都による実態調査によると、都内で把握されたアイヌの数は2,700人である。そして最新（2013年）の「アイヌ生活実態調査」では、道内で把握されたアイヌの数は16,786人で7割が道南に集中しているとされている。これらはいずれも行政が把握している数であり人口ではないことに注意する必要がある。例えば、調査に協力している北海道アイヌ協会の地方組織が存在していない地

北海道大学愛努・先住民研究中心全體同仁合影。前排左一為該中心主任常本照樹，正中央為致力推動成立該中心的北海道大學前校長中村睦男。

北海道大学アイヌ・先住民研究センターの集合写真。前列左端が常本照樹センター長、前列中央はセンターの設立に尽力された中村睦男元北海道大学総長。

人口

根據1988年東京都所作的實態調查，我們得知東京都都內已掌握的愛努族人數為2,700人。最新（2013年）的「愛努族生活實態調查」中，北海道內已掌握的愛努族人數為16,786人，其中七成集中於北海道南部（道南）。但必須注意上述人數皆為行政上所掌握的數據，並非實際人口。舉例來說，有些區域因為沒有北海道愛努協會的地方組織存在，故無法幫助調查才出現掌握人數為零的情況。但實際上我們很難設想當地完全沒有居住具有愛



江戸時代和人描繪愛努族の畫卷〔部分〕。因畫箱題字為「文化八年未年五月由江戸地區的久田次衛門獻上一軸蝦夷人物畫卷」，故可推為1811年左右的作品。國內外也有類似的畫卷。（北海道大學愛努・先住民研究中心典藏）

江戸時代に和人がアイヌを描いた繪卷〔部分〕。箱書きには「文化八年未五月 蝦夷人物 一軸 於江戸久田次衛門差上」と書かれており、1811年頃の作と推定される。国内外に類似する繪卷が複数存在する。（北海道大学アイヌ・先住民研究センター所蔵）

域においては把握数がゼロとされているが、実際にはアイヌ系住民がいないとは考えられない。また、地方組織が存在する地域でも、アイヌの血統をもちながらアイヌであることを隠している人々の数は把握されていない。

日本においては国勢調査に民族という項目は含まれていないし、アイヌを対象とした人口の調査も行われていないのである。

文化

今日に知られる伝統的なアイヌ文化は、動植物や天体、火や水を神として畏敬し、儀礼の対象とする宗教・自然観を有する。とくに、ヒグマに対する大がかりな儀礼はよく知られる。このような文化は、北海道の縄文文

努血統的居民。另外，即使有些地區有地方組織，但也沒有掌握到隱藏本身具有愛努族血統的愛努族人數。

此外，日本國內所進行的人口普查（國勢調查）中，沒有「民族」這項調查項目，也無針對愛努族進行人口調查。

文化

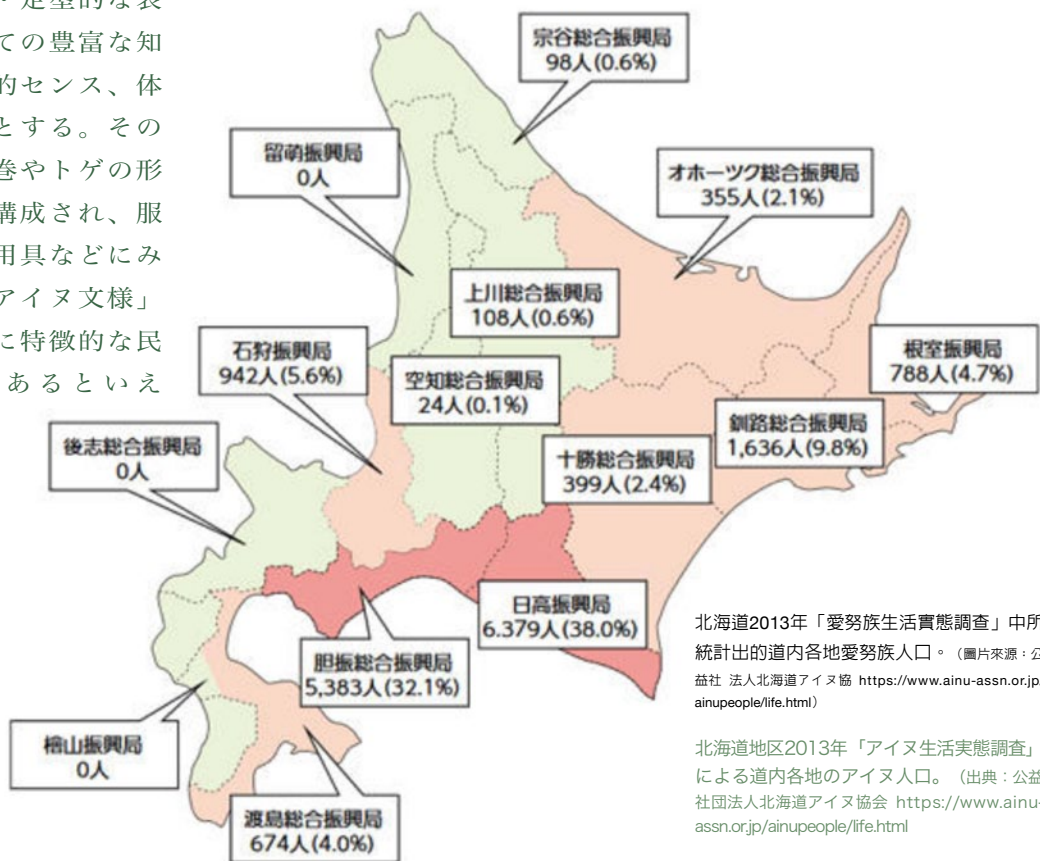
現今所知愛努族的傳統文化，其宗教、自然觀將動植物、天體、火、水視為神祇並予敬畏，同時視為儀禮的對象。特別是祭拜棕熊神的大型儀禮最廣為人知。愛努文化主要以北海道「續繩文文化」（西元前3世紀-西元7世紀）與後繼的「擦文文化」（7-13世紀）為母體，並與北方「鄂霍次克文化」（5-9世

文化（BC3世紀-AD7世紀）や、それを継承した擦文文化(7-13世紀)をおもな母体とし、北方のオホーツク文化（5-9世紀）や、本州・大陸などの諸文化と交流しながら形成されたと考えられる。

日本語や周辺の言語との関連性がないアイヌ語は孤立言語とされ、その起源について定説はない。アイヌ語には日常語と雅語があり、雅語は口承文芸や祝詞に使われる。口承文芸には多彩なジャンルがあり、民族の重要な文化遺産である。最も長大な英雄叙事詩は、雅語・定型的な表現についての豊富な知識と音楽的センス、体力を必要とする。そのほか、渦巻やトゲの形などから構成され、服飾、生活用具などにみられる「アイヌ文様」も、非常に特徴的な民族芸術であるといえる。

紀）、日本本州、大陸等文化相互交流所形成的。

愛努語因與日語或周邊語言無關聯性而視為孤立語言，其起源目前無定論。愛努語可分為日常語與雅語，雅語則用於口傳文藝或祈神詞。口傳文藝有各種各樣的種類，是重要的民族文化遺產。其中規模最大的長篇英雄叙事詩，要求吟唱者具備豐富雅語、定型表現的知識、音樂感受力與體力。此外，由漩渦狀或刺狀構成的「愛努紋様」用於服飾、生活用具等方面，可謂是極具特色的民族藝術。





儀式等場合所穿著的服飾上有美麗的愛努紋樣，此工法有各種不同方式。照片的服飾是用絹絲將紋樣繡上去。北海道大學植物園・博物館所藏資料的「重製」為2008年西田香代子氏所製作。（北海道大學愛努・先住民研究中心典藏）

儀式の際などに着用される着物には美しいアイヌ文様が施される。その技法には様々なものがある。写真の着物は、絹糸により刺繍が施されている。北海道大学植物園・博物館所藏資料の「重製（複製）」。2008年、西田香代子氏制作。（北海道大学アイヌ・先住民研究センター所蔵）

歷史

古代の日本は、中央政府に従わない東北地方などの人々を「蝦夷（えみし）」と呼んだが、「えみし」とアイヌの関係には定説がない。一方、中世・近世の「えぞ」は基本的にアイヌを指すとみられる。アイヌは本州の和人と盛んに交流したほか、大陸の元（モンゴル帝国）と数十年にわたって紛争を繰り広

歷史

古代日本稱不服從中央政府的東北地方集團為「蝦夷（emishi）」，但「蝦夷」與愛努族的關聯性目前尚未有定論。另一方面，中世、近世時的「蝦夷（ezo）」基本上所指的是愛努族。愛努族除了與日本本州和人（所謂的大和民族）頻繁交流外，與大陸的元朝（蒙古帝國）之間的反覆糾紛達數十年之

げ、のちには明や清とも交流した。14世紀頃、北海道南部の沿岸を中心に、和人の拠点が点々と出現する。江戸時代には、この地域を基盤とする松前藩が成立したが、北海道の大半は「蝦夷地（えぞち）」として異国扱いであった。松前藩はアイヌとの交易を独占し、さらに本州の商人たちが蝦夷地の各地に進出する。その過程では、和人による不公正や横暴も目立ったため、アイヌによる何度かの戦いが起きた。その後、極東に進出してきたロシアの南下が明らかになると、江戸幕府は蝦夷地の直轄化を試みる。

久、之後也跟明朝與清朝有所交流。14世紀左右，以北海道南部沿岸為中心，陸續出現和人的據點。江戸時期，以該地區為基礎成立了松前藩，將北海道的大部分稱為「蝦夷地（ezochi）」並當做異國對待。因松前藩獨佔與愛努族之間的交易，本州的商人也開始進出蝦夷地的各地。在此過程中，因和人造成的不公不義與蠻恨無理日益顯著，愛努族因此發動多次戰爭反抗。之後因踏足遠東的俄羅斯南下情況明確，故江戸幕府試圖將蝦夷地轉為直轄化。



2020年国立愛努民族博物館於北海道白老町の予定地。
 (圖片來源：閣官房アイヌ 合政策室http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/dai8/siryou1_3.pdf)

2020年に公開される国立アイヌ民族博物館の北海道白老町の建設予定地。(出典：内閣官房アイヌ総合政策室http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ainusuishin/dai8/siryou1_3.pdf)



2014年北海道大學愛努・先住民研究中心參訪泰武鄉吾拉魯茲部落。(政大原住民族研究中心提供)

北大アイヌ・先住民センターが2014年に泰武鄉ウラルツ集落を訪問。
(写真：政治大学原住民族研究センター)

明治政府が成立し、1869年に「北海道」が誕生すると、急激な近代化政策が推進されるようになる。政府は、1871年に戸籍制度を定めると、アイヌ民族も戸籍に編製し、女性の入墨等の伝統的慣習をいくつか禁止した。翌72年には北海道に近代的土地所有制度（売買を前提とした土地の個人所有制度）を導入したが、現にアイヌの人々が暮らしている土地に和人が所有権を勝手に設定するなど、アイ

明治政府成立後、1869年「北海道」誕生、之後推動激進的近代化政策。日本政府1871年訂定戸籍制度，愛族民族也被編入戸籍，同時禁止女性刺青等多項傳統習慣。隔年1972年北海道導入近代土地所有制度（以買賣為前提的土地個人所有制度），擅自將原有愛努族所居住的土地的所有權設定為和人所有等行為，造成愛努族土地喪失。1899年制定「北海道舊土人保護法」，試圖讓愛努族從事農業

ヌ民族の土地喪失をもたらした。1899年には「北海道旧土人保護法」が成立したが、農業に従事させることによってアイヌ民族の経済的自立を図るもので、同化政策との批判もある。

戦後になると社会的差別がさらに深刻化した。1994年に萱野茂氏が参議院議員になると、その尽力もあって1997年に「アイヌ文化振興法」が制定された。その後、2008年には国会で「アイヌ民族を先住民族とすることを求める決議」が採択された。

民族の地位

アイヌが日本の先住民族として承認されて以降、2009年に内閣官房に「アイヌ総合政策室」が設けられ、官房長官を座長とし、アイヌの生活水準の向上や「広義の文化」の振興を目的とした「アイヌ政策推進会議」が開かれた。そのほか、近年の成果としては2020年に一般公開される「国立アイヌ民族博物館」と「国立民族共生公園」等からなる「民族共生象徴空間」が挙げられるだろう。

そのほか、学術研究においては、2007年に北海道大学にアイヌ・先住民研究センターが創設され、国立で唯一のアイヌ研究機関となっている。言語、歴史、考古学、文化人類学、法学など多岐にわたる分野において、アイヌ民族や世界の先住民族に関する研究が意欲的に行われている。また、センターではアイヌの生活向上や民族共生可能な環境の実現を目指し、アイヌ文化の伝承への貢献やアイヌ政策への専門的提言にも取り組んでいる。◆

讓民族經濟能夠自立，但也有批判此法為同化政策。

到了戰後社會歧視情況更加嚴重。1994年萱野茂當選參議院，萱野茂的奮鬥下1997年日本制定了「愛努文化振興法」。之後，2008年日本國會通過了「要求愛努民族為先住民之決議」。

民族地位

日本承認愛努族為先住民族後，2008年於內閣官房設置「愛努綜合政策室」，由官房長官為主席，以提升愛努族生活水準或振興「廣義的文化」為目的，召開「愛努政策推進會議」。另外，近期成果則有2020年將公開由「國立愛努民族博物館」與「國立民族共生公園」所構成的「民族共生象徴空間」給一般民眾使用。

另外，學術研究方面，2007年北海道大學創設愛努・先住民研究中心，為日本唯一國立愛努研究機關。中心於語言、歷史、考古、文化人類學、法學等多方面領域，積極進行愛努民族或全球原住民族相關研究。此外，中心以提升愛努族生活品質與建構民族可共生之環境為目標，致力貢獻於愛努文化傳承或給予愛努政策專業性建議。◆